

○議長（牟田勝浩君）

皆さんおはようございます。前日に引き続き、本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を続けます。

日程から見まして、本日は14番末藤議員の質問まで終了したいと思います。

それでは、19番山口昌宏議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

おはようございます。朝9時、なかなか気分が乗らんですね。きのう杉原議員の質問を聞いた中で、やっぱり一番バッターの朝の9時というのは、なかなか朝早う起きて、その心の準備が難しいなど、今つくづく思っております。

実はけさ、きのうの2番議員の質問の中で出ましたので、仙台に電話をさせていただきました、大友さんに。大友さん、元気ですか。はい、何とか元気にしております。九州も寒いんですけど、どうですか。しばれますね。イントネーションがちょっと違うかな。まあ、そういうふうな感じで、現状をいろいろと話をさせていただく中で、何を言われたか。「昌宏議員さん、ありがとうね」と言われたんです。何で昌宏議員かという、仙台に行ったのが、4番の山口裕子議員、そして2番の山口等議員、山口が3人いるわけです。（「いや、もう一人おんさるばい」と呼ぶ者あり）しかし、良広議員の場合は仙台のほうには行っていなかったの、大友さんは御存じじゃない。そういう中で、等議員、裕子議員、昌宏議員、下の名前で呼ばれます。そこで、ありがとうねと。あら、10月に仙台に行ったときのそのお礼かなと思ったんです。実はそうじゃなくて、市長のブログの中で見られたとおり、今回の瓦れきの件なんです。

今回の瓦れきの受け入れは、市長は断念をされましたけれども、遠く1,600キロ向こうの仙台の皆さん方は、この武雄市の市長の、武雄市民の思いを思うときに、本当にありがとうと、その気持ちでいっぱいです。涙ながらに、けさその話をしました。市長も、演告の中で声を詰まらせながら、断念をした自分の思いを申されましたけれども、我々の想像を絶するような東北地方の災害であったと思います。

そこで、今市長がどのような気持ちでおられるのかをただしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

震災瓦れき、これは放射線を含まない震災瓦れきを受け入れたいということで、それを杵藤広域圏の首長会議に提案をしたいということで、断念というか、先送りをしたんですけど、

その後のお話をすると、1つ私が非常に印象深いのは、さきの物産まつり、5万人の皆さんたちにお越しいただいた中で、私が基本的には不用意な人ですので、いろんなところに土曜日は全部いますということをしたら、東京とか大阪から反対派の人が来んさったとですよ。そいぎ、私は、その方々の顔は知らんけど、私も一定、何かいろいろ報道されたみたいですね。そいぎ、「ああ、あいぞ」とか「あいぞ、あいぞ」とか言って、こう来んさったわけですよ。私は、基本的に恐怖を感じたときは固まるですもんね。フリーズといいます。そいぎ、こうしたときに、わあーって言いんさったとですよ。そいぎ、「ちょっとここでやけんが、こっちに行きましょう」と言うて、人目のつかんところで話ばしたとですね。

そいぎ、話せばわかるて言うてですね。やっぱり私も、何というですか、この前の演告と大体同じことば言うたとですよ。自分の思いはこうですと言うたら、全員が全員て言わんやったばってんが、その中の特にお一人が、「こい樋渡さんの言うところが正しかもしれん」と、しかも、「私たちも復興は応援したか」て、「そいけんが、もう少し私調べてみます」て言いんさったとですね。そいば聞いたときに、やっぱり震災瓦れきイコール放射線というとは、もう風評被害のごと蔓延しとって、これは心ある皆さんたちもそれにかかってしもうて、でも、実際話ばすぎんた、わかってくんさるといふのやっぱり感じたですもんね。そいぎ、私言いました。「せっかく来んさったけんが、武雄の物産ばいっぱい買うてくんさい」て言うたぎんた、がん買うて帰んさったです。やっぱりよか人です。

それと、もう1つ印象に残ったのが、瓦れきの受け入れを先送りするというニュースがばあつと報じられた後に、私何人か武雄市民の方からも直接言われたとが、何でこいば撤回するとかということも言われました。で、そうなったときに考えたときに、今の気持ちというのは、私自身は、1つはそういったことを自分の身として考えてほしいということの問題提起はできたというふうに思うとるわけですね。今、もうどんどんどんどん報道の減っていきよるけんが、こいばパフォーマンスて言われる向きもあるかもしれません。しかし、やっぱり問題提起をするというのは政治家の仕事ですもんね。

それともう1つが、こいばきっかけとして国がもう動きよるとですよ。やっぱりこれは何とかせんばいかんぞと、これは東京とか新潟とか三重とかも全部一緒です。がんふとうなつたとは、うちが初めてですけど、私のキャラがこうですので。

それともう1つが、これちょっと最後にしますけれども、戸羽市長です、陸前高田市長。全く大友よし江さんと同じことのメッセージを御自身のフェイスブックでも書かれて、かつ私のところにメールの来たですもんね。どかん書いてあったかていうぎ、こういうのに樋渡さんを巻き込んで本当に申しわけなく思っているて、しかし、武雄市民——ここが大事なんですよ、武雄市民の気持ちは伝わりましたて。それは自分だけじゃなくて、私たち東北に光、希望を与えましたということが書いてあったときに、やっぱりあれは涙流してしか読まれんですよ。

だから、そういうことでいろんな批判もあります。批判もありますし、脅迫まがいなこともありますけれども、やっぱりそれはそれとして、私たちの思いがきちんと伝わって。それをきっかけにして、反対された皆さんたちもほかの支援を考えようということになっただけでも、私は感謝を申し上げたいと思います。

ただ、私が謝らなければいけないのは、報道が先行したとはいえ、いろんな人たちに不安感を与えてしまったということについては、そこはやっぱり何度も申し上げておりますけれども、改めておわびを申し上げたいというふうに思います。結果、市を二分することになりかねんやっただとですね。そういうことに関しても、そこは私の不徳のいたすところだというふうに思っておりますので、議会議員の皆様方の御指導をいただきながら、人心修養に努めてまいりたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

実は、市長の断念の後、その次の日に新聞に載りまして、私のところにも何件か電話がありました。その電話の内容は何やったか。あのさて、佐賀県も原子力の発電所のあろうもん、これが逆になったらどがんになると。自分たちがそういうふうな被害を受けたときに、例えばよその人たちが、ほかの県の皆さん方が、いんにゃ、佐賀県のは危なかけん受けんよと言うときどがんになると。それを考えたら、今回は市長も申しましたとおり、放射能はない部分を受ける、要するに国の基準にのっとって受けるというような言い方をした中で、やっぱりそれは受けるべきじゃなかったろうかという電話をたくさんいただきました。

それと、けさの大友さんとの電話の中でも言いよったですけれども、彼女ら、要するに被災者の皆さん方は、本当に気丈なんですね。こども部長のところ、ちょっとこの間話をしよったんですけれども、東北の人たちはちょっともう、何というか、粘り強かですね、明るかですね、大友さんであり、早坂さんであり、彼女らを見たときに、私たちやったらあそこまで――表面上ですよ、あそこまで元気にはしいきらんよという話をしていた。

ところが、武雄市に来られたときに、それこそ4番議員も御存じのとおり、話の中で彼女らが言ったことは、車の中で私たちも何十遍、何百遍、泣いたことかと言われるんです。しかし、表面上はそういうふうなんですね、気丈にも。そして、最後にありがとう。私たちに手を差し伸べてくださった人たちは、日本だけではないです。全世界の人たちが私たちに手を差し伸べていただきました。しかし、武雄市の皆さん方のこの温かい御支援は恐らく一生忘れないでしょう。そして、今から先も皆さん方と交流を続けたい。それで、けさ電話を切りました。

やっぱり現場に行ってみて、皆さん方の気持ち、あるいは現場の惨事の状況を見て、初めて、ああ、こういうふうな状況だったんだなということをつくづく感じさせていただいたと

ころでございます。

それでは、通告順に従いまして質問させていただきますけれども、1番目に市長のトップセールスの効果についてということで出させていただきます。

今市長は、武雄市民ばかりではなく、全国の皆さん方が心配するくらいに、きょう北海道におったかと思うと、次の日は沖縄におったというくらいにトップセールスとして飛び回っております。武雄の市長さんはごつといがんで回いよんさるばってん、武雄市政のことはどがんしよんさるやろうか。そんなくらい、心配するくらいに市長は一生懸命回っておる。そういう中で、今の現状の中でその手ごたえといいますか、いかがなものでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私が市長に就任させていただいて5年半がたちます。その間、2つに分かれるんですね。

1つが、病院前と病院後です。病院前は、例えば、どんなに私が呼ばれて全国に行っても、武雄てどこですかという地図から説明せんばいかんやったですもんね。もう毎回です。私も、ああ、つらかなて思いよったわけですね。それで、私が、例えば請われて講演ばしたときでも、300人の集まる場所に4人とか、これはお茶会と思いましたが、それもちょっとつらかなと思っていました。で、トップセールスといっても知られとらんけんですね、トップセールスに至るので、もうそのセールスが終わったということもありました。

しかし、これは武雄市民、議会の皆さんたちのおかげなんですけれども、今はもうどこへ行っても、私の顔ば知らんでもですね、このごろは顔を見て、「あっ」て言いんさるですけど、「武雄市から来ました」と言ったら、「ああ、あの元気のあるところね」と、大体こういうふう言いんさるとですね。で、これは企業経営者もみんな同じです。そいけんが、もう前段の話ばせんでよかわけですね。もういきなりぼとっと話ができるわけですね。

それで、今私は、これはチーム武雄の皆さんたちのおかげですけれども、やっぱり全国で被災地を応援しようということで、ほとんど講演は断ってきよったとですよ。もうしばらくは。でも、今こいば全国に広げんばいかんということで、これは被災地の皆さんからも依頼をされていますけれども、基本的にそれはうちの出張費は使わんで、政務で行くということも事実ふえています。そのときに、やっぱりあの武雄市が言うないば、自分たちも応援しようというふう完全にもう切りかわつとるわけですね。

で、手ごたえはということになると、それは次の段階ですもんね。やっぱり果実も、種ば植えて、肥料ばやって、水ばやって5年ぐらいかかります。桃、クリ3年、カキ8年、樋渡市政12年といいますので。——あ、それ以上しますよ、民意が許せば。ですので、それはもう少しですね、じゃ、目に見えた成果は何だと言われたときには、今まで、例えば、1つは僕は病院だと思っていますけれども、今度は工業団地なんですよ。あれを埋めることが私の

仕事だとも思っていますし、これは議員御案内のとおり、トップセールが一番ききます。そういうことで、今は1期、1期、2期ですけど、この3期目に果実が出るようにしたいというふうに思っております。

幸いにして、私たちには前田副市長という逸材がおります。顔も性格も、私のほうが上です。しかし、仕事は彼のほうができます。しかも人心掌握力もあります。そういう意味で、私は、民官会社でいうと会長兼CEOです。副市長が社長兼最高執行役員なんですね。そういうことで、よく副市長と役割分担をしながら、私は私にしかできない仕事、私にできない仕事は副市長以下事務方の職員にさせていただいて、それで両翼となって武雄市政を推進してまいりたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

それはそれとして、先日のトップセールスという出張の際に、何か名古屋のほうに行かれたという話をちょっと聞いたんですけれども、名古屋といえは豊田市と、あるいは名古屋といえはというよりも、愛知県といえは豊田市なんですね。

豊田市ということは、トヨタ自動車のあるところであろうかと思うわけですね。そういう中で、これは1つの例になるかもわかりませんが、愛知県の名古屋市に行かれたときに、そういうふうな場合にはどういう話をされるのか、その点についてお尋ねしてよろしいでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先週、名古屋のトップ、トヨタの張富士夫会長と会談をしました。これは、きわめて例外であります。普通、知事も会えない。大臣クラスも普通は張会長には会えません。それはそうですね。世界のトヨタ、しかも、その上のトップですから会えないと。これは北川理事であるとか、うちの松尾謙一も一緒に連れていきましたけれども、そのときに、時間も普通は3分なんです。これは総理も一緒です。一緒なんですけど、あのときは二十数分で、話が弾むわけですね。それはなぜかという、1つは西川登町の間人国宝の中島宏先生と非常に近いという関係もあられるし、それと、佐賀の古川知事と非常にじっこんにされているというのがあります。そういった御縁に恵まれて、よう私のことも知っとんさるですもんね、リコールに遭ったこととか。その上で、やっぱり私は、規模はたがえども同じ経営者なんですね。経営者同士に物すごく共感をして、その上で、いきなり言うても聞いてくんされんわけですね。そいけん、武雄北方工業団地の話をしたときに、顔のばって変わんさったですもんね。

そいぎ、どがん言いんさったかていうぎ、ここはインターからどんくらいですかと、インターから2分で着きますと、そいぎ、近くに病院はありますかて言いんさったですもんね、新武雄病院がありますて、そうですか、あれはリコールでなくなったかと思っていまして言いんさったときはがくつきましたけど、学校はどうですかて言ったら、公立の中学校はこれだけありますし、中高一貫で青陵中武雄高というのもありますということをしたときに、これは、私からグループ、数千会社あるわけですね、そこに当たりのつくところに直接私のほうから連絡をしますということをおっしゃいました。

しかし、これは御案内のとおり、今円が77円か78円ぐらいですので、もうこれは張会長みたいな超人でもね、東芝の北九州での撤退の話とかもありますので、なかなか一朝一夕にはいかないんですけれども、そこで共通したのが、やっぱり雨天のときにちゃんと種ばまいときましょうて。そいぎ、必ず晴れるときがあると。で、そのときに芽が出るためにも、やっぱり今のときにちゃんとしましょうねということをおっしゃっていただきましたので、そういう意味ではよかったのかなと思っています。

で、これを私のブログに載せました。ちょうど瓦れきの問題のときやったけんが、1日のブログのアクセス数25万件やったですもんね。しかもそのとき、たまたまですよ、張会長と私がにこってしとった写真の出とっけんが、こいで武雄の実像のまた大きゅうなるととですよ。こいばやっぱり広告と言うとなというふうに思いましたので、あれを見た方々が自分たちも会いたいという声も来ていますので、これはそういうふうにもまたつなげていきたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

トップセールスとしては、今の状況のようなんですけれども、今度は企業立地課のほうで答弁をしてもらいたいんですが、何かといえば、モノレールに、武雄市の工業団地の価格とか面積とかが、意外とモノレールの中の見やすいところに看板が置いてあった。ええとこやったな、武雄市はと思って見よったとですけれども、その辺について、企業立地課のほうにも何か問い合わせがあるのかどうか、お尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

モノレールの件ですが、10月に武雄北方インター工業団地は分譲開始をいたしまして、早速PRの一つとして、今東京モノレールのほうにポスターを張っております。これについては半年間ということで、まず試行——試行といいますか、第1弾として取り組みをいたしております。

ごらんになられた方から問い合わせはありますが、まだ出したばかりでございますので、実際に引き合いになるまでには至っておりませんが、数件の問い合わせはあっております。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

数件の問い合わせがあっておりますという話ですけれども、もう少し、やっぱり数件じゃなくて、数十件、数百件となるように我々も頑張らなければいけないのかなというふうに思っております。

市長にちょっとお尋ねですけれども、トヨタの会長さんとお話をされた中で、例えば、工業団地の坪単価は3万5,000円……（「4万7,000円」と呼ぶ者あり）今坪単価は4万7,000円という話なんですけれども、例えば、トヨタから、これは仮定ですけれども、トヨタの関連会社が来ますよというような状況になったときに、今坪の4万7,000円という話ですけれども、そがみみちかことは言わんで、この土地すべて使ってください。そして、それに見合うだけの工場を建てていただいたら、例えば、極端な言い方ですけれども、100億円の投資をしてもらったら、そして、その中で従業員を雇用していただいたら、坪4万7,000円なんていうのは、もうすぐ吹き飛びますよね。

そういう中で、市長はその辺についてどのようなお考えなのか、どうしても4万7,000円とらば来らせんばい、あるいは、いや、この場合はそういうふうな状況の中で投資をしていただいたらという気持ちがあるのか。その辺についてちょっとお尋ねをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、これはね、きょうユーストリームでも流れていますし、ちょっと一部企業秘密もありますので、やっぱり交渉事というとは外に明らかになかなかできんとですね。

しかし、一例だけ申し上げます。私が企業誘致したときに、実は、やっぱり向こうも徹底的に調べるんです。そのときに引っかけるとは、病院問題も引っかけるとは、もう1つ、関西大学の誘致なんです。私は、大阪府の高槻市時代に関西大学の誘致に成功しました。何も私一人の力ではありません。そのときの市長の強いリーダーシップもありましたけれども、その中で、持参金の話ばしたとですね。これは議会で大もめにもめましたけど、私が去った後に。

そういったことで、高槻市の場合はゼロどころかプラスアルファ、この額は申し上げませんが、そういったこととか、あるいは、あの当時、関西大学を誘致するに当たって書類が物

すごかったわけですよ。もういっぱい、いっぱい。うちの教育委員会以上に物すごかったわけですね。そのときに言ったのは、うちが全部書きますと、しかも職員を、私の配下にプロジェクトチームをつくったけんが、もう私のところにおらんでよかと、全部関西大学に出したですもんね、関西大学の事務局に。今で言う橋下さんの府市統合本部んごとして出したわけですよ。出して、すべての書類はその場でワンストップでします、持ち帰りはしませんと。で、市長と私の権限、部長やったですので、私の権限は全部彼らに——ちょうど北川理事に顔の似たごたる人やったですもんね、私の配下の職員が。ですので、彼が鬼瓦権造となって、そこで全部処理をするというふうにして、単に持参金だけじゃなくて、ハード、ソフトでも全面的に支援しますといったのが、結果、500億円の経済効果ば生んどるですよ。

そいけん、それは昌宏議員と全く見解は一緒やし、これは前、黒岩議員も言いんさったですもんね。大きく打てと言いんさったけんが、その理解というのが武雄市議会の誇りだと私は思います。一部例外はありますけど。

ですので、そういう意味でいうと、私が今まで携わった——携わったというか、御指導いただいた議会からすると、武雄市議会は本物です。ですので、そういった意味からでの後押しを、ぜひお願いしたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

まさに、例えば、浦安市、市川市、両市にまたがる市民病院の問題のときでも同じですけども、97億円を上限にやりますよというような状況でもなかなか来手がないという状況の中で、とにかく高い金を出してじゃなくて、逆にこの辺のところについては臨機応変に考えていただきたいなというふうに思っております。

そういう、トップセールスで頑張っておられる樋渡市長を陰に陽に支える前田副市長が、今の市長のトップセールスについてどういうふうな考えを持っておられるのか、答弁をいただきたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

前田副市長

○前田副市長〔登壇〕

なかなか答弁は難しいと思いますが、ちょうど合併してから、平成18年4月に市長が就任されて5年半ちょっとになりますけれども、一緒に仕事をしてみて、今までにいろんな市長とおつき合いをしましたが、こういう行動力がある市長は今までにいなかったと思います。そういう意味で、武雄市の知名度、あるいはPRは着実にできているというふうに思います。市長みたいには私はとてもできんと思います。

ただ、市長がいつも言うように、さっきも言いましたが、外政については市長がやると、

それから内政は私に任せるということで、その分については、今のところ順調にいつていると思いますので、今後は、市長としては市長の仕事を思う存分やっていただきたいと思います。私も私なりにやっていきたいと思いますので、議員の皆さんの力を得ながら、武雄市がもっと前進するように頑張りたいと思います。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

前田副市長、さっきの話は高う言われんかもわからんですけれども、もし何かあったら、こそっと言っていただきたいと思います。

この項の最後に、新幹線課の関連でちょっとお尋ねします。

きのう、おとといの新聞やったですか、新幹線はフル規格で武雄温泉―長崎間はやるというような、その新聞に載っていましたが、機構に聞けば、本物はフル規格とまたちょっと違うですよという話も含めて、機構の方が言われておりますので、その辺のところについて、新幹線課のほうで把握されている分、あるいは現在の進捗状況、その辺について質問をしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

新幹線の状況でございますが、12月7日、8日の新聞報道につきましては、武雄温泉―長崎間のフル規格という表示で新聞報道に出たところでございますが、このことにつきましては標準軌ということで、現在の認可の中では、現在新しくつくっている武雄温泉―諫早間につきましては、狭軌での狭い線路で認可をされております。ただ、この狭軌であれば130キロまでしか速度が出せませんので、やはり時間的な効果を求めていくには200キロの走行に耐えられる標準軌にすべきだということで、佐賀と長崎があわせてこれまで要望をしてきたところです。その内容を受けて、国交省のほうで検討に入ったというふうなことでございましたが、国交省自体としては、まだ公式見解としては出しておりません。ただ、そういったコメントが国交省のほうから出たものを報道関係でそういった形で表現をしているというふうなことで聞いております。

それから、新幹線の現在の市内の状況でございます。新幹線の関係市内は14区ありますけれども、武雄町、東川登町、西川登町にわたりますが、それぞれ設計協議から用地交渉ということで、ばらつきはありますが、順調に進捗をしているところでございます。

武雄町につきましては、松原、武雄、竹下、下西山区については設計協議をほぼ終了いたしました。現在、用地交渉を行っているところでございまして、一部家屋の解体も進んでい

るところでございます。なお、小楠、天神、昭和区につきましては、新幹線の駅に関する設計図面ができ上がってまいりましたので、この分について今、県、市の管理者との交差協議をやっているところでございます、これがまとまり次第、また地元のほうに協議に出向くという状況にやっとなったところでございます。あと、上西山地区についても現在測量設計中ということでございまして、後ほど協議に入ると。

それから、東川登町でございますけれども、武雄南ジャンクションですね、高速道路のジャンクションの南側につきましては、宇土手と袴野区でございますが、ここにつきましてはほぼ設計協議を終えて、用地交渉中でございます。それから、ジャンクションから北側の内田区と袴野区、亀屋、百木地区につきましては、現在、設計協議をいたしておる状況でございます、今後、その設計協議の中身を詰めていきたいというふうなことでございます。

それから、西川登町の小田志地区が一部かかっております。ここについても、現在設計協議を行っているところでございます。

いずれにしても、新幹線が通ることで状況が以前とは変わります。そういうことで、この設計協議の中で、地域の環境が以前よりも悪くならないように、少しでも改善ができるようにということで鉄道・運輸機構のほうには今働きかけをしているところでございます。

以上でございます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この前の佐賀新聞の一面の、武雄温泉から長崎へのフル規格のすっぽ抜きですね、この背景を申し上げたいと思います。

実は、私も役所におりましたので、あれは国交省から出たというのは間違いありません。間違いはない。しかし、国交省もやっぱり熟慮のなかぎんた、あがんとは出されんわけですね、幾らなんでも。ですので、その背景を一つきちんと申し上げますと、私が嬉野市長さん、あるいは長崎市長さんたちと一緒に、その1週間ほど前にトップセールスで長崎新幹線の全線開通等について、要望に民主党の本部に伺いました。幹事長室へ行ったときに、そのときに横におんさったとは、民主党の高木さんを初めとして、長崎の国会議員ばかりなんですよ。長崎の大久保さんであったりとか、高木さんであったりとか。佐賀の人おんされんすもんね。おんされんとですよ。（「好かれとらんやったとやろう」と呼ぶ者あり）ああ、私です。まあ、そうですね。——そうじゃありません。好かれています。そいで、行ったときに、長崎の民主党議員の迫力が違うわけですよ。そいに幹事長室が気押されて、やっぱりこれはせんばいかんというふうになるとですね。ここに国会議員の力を見ましたよ。

ところがどっこい、うちほどがんですかね。普通はですよ、私、別に大串さんが好き嫌いはいりませんけれども、あの人のブログをきょうの質問に備えて見てきたばってんが、もう

他人事ですよ、他人事。何もね、その財源がどうだとか——公共事業やけん財源かかりますよ。しかし、長崎新幹線の地元議員としての熱意も迫力も感じません。ですので、民主党の中にやっぱりアクセルとブレーキのあるとですね。それで、やっぱり国交省がその足元ば見よったわけですよ。だから、ああいうふうな話というのは出せんやっただけでも、やっぱりこの前、約束ばしんさったです。年末までにはこの問題は決着させますて言いんさったですもんね、幹事長室の人の。小沢派の人が言いんさったですもんね、三井さんという方が。ですので、年末までに一定の方向を出しますと、そういうふうに政府にきちんと要望しますとということをおっしゃいましたので、それが今回の佐賀新聞の一面に、まあ、それが全部じゃないにしてもね、それが伝わっているんじゃないかなというふうに思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

いずれにしても、市長の動きを見たときに、一番あらわれているのが武雄市に対する訪問かなど。議員さんたちの行政視察ばかりじゃなくて、各種団体の視察、武雄市に対する視察ですね。本当に、こいで武雄市の議会事務局は大丈夫かいというような視察の多さなんですね。それがやっぱりトップセールスの成果かなど私は思っております。そういう中で、目的を見誤ることなく、いい方向に今後も進んでいただきたいと思っております。

それでは、2番目の今後どのような方向性をもって運営をなされるのかという中で、今回は未来課と特産品課、まず特産品課のほうからいきたいと思いますけれども、資料といえば、資料をもらっております。

まず、レモングラスをちょっと申しますと、本年度が2万5,000平米ですか、合計面積。これ、平米でしょうね。2万5,000平米というと2町5反ということでしょう。そい、平成23年度。平成24年度はといえば、5万平米、5町。ふえたり減ったりしよる中で、一気に倍にいくて。まあ、これは行政の書くことやけんが、こんなもんかなと思しながら、課長とも話をしよったんですけど、そういう中で、本当にここまで伸びるのかなという感も持っております。

それともう1つ、市長に苦言を呈したい。それは何か。トロピカルフルーツについて、何じゃいわけわからんとのあるとが、リュウガン、まあ、ライチは私も知っとるですね、ライチは冷やさんぎ食われんごたる代物。そして、ジャポチカバ、ブラジル産、こういうふうなともですね、これは恐らくこの3つとも、2つは、上のリュウガンとかライチというのは中国のものらしいんですけど、それだって亜熱帯かなという中で、武雄市には武雄市としての本当にいい特産品、要するに農産物があると私は思っております。

例えば、イチゴにしてもしかり、東川登の者の来とんさっぎわかっつとばってんが、もとも

ところら辺では、イチゴというのは「袴野」という名のイチゴが、あそこにこうして座っておられる小池副議長だってイチゴをつくっておられますけれども、もともとのところら辺のイチゴの原種というのは「袴野」なんです。知ったですか。——ああ、知ってる。「はるのか」とかなんとか言うてあるでしょうが。ああいうふうなどの原種というのは「袴野」なんです。そんなくらいに古かイチゴから始まったのが今のイチゴ。

カキだってしかり、このごろ「温泉美人」で、これだって1個200円ぐらいする。あるいは、何というですか、苦かと、ゴーヤ、ニガウリ、あれだって西川登小田志の高田さんという人がつくりよんさる。その人のだけ、それこそニガウリの1本100円、150円するとですよ。まさにこれが特産品なんです。一生懸命になってつくった結果がそれです。それは確かにこういうふうなライチもいいでしょう。それから、何とか何とかもいいでしょう、ジャポチカバもいいでしょう。しかし、現在ある、例えば、さっきも言いましたとおりカキであり、レモングラスもいきなり倍ばかりに書いてあったですけども、それは無理かもわかりませんが、レモングラスもそこそこに定着をしてきた中で、そういうふうな現在ある特産品、要するにものを今後どのような方向性をもって推進していこうと思われるのか。まず、この前にしていただきたいと思うんですけども、その辺について質問します。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと数字を申し上げたいと思います。

レモングラスは、本格栽培を始めて3年になろうとしていますけれども、10アール当たりの米が、これはばらつきもありますけれども、高いもので10アール当たり11万7,000円なんです。じゃ、レモングラスはとなったときに、10アール当たり、これ高い安いあります、真ん中ぐらいをとって33万6,009円なんです。3倍なんです。ですので、そういう意味で行政が、これは異論反論あると思いますけれども、やっぱり米、麦、大豆、あるいは昌宏議員がおっしゃられた、例えば、ゴーヤとか、丹精込めてつくられた「温泉美人」というのを一番最初にきちんとやるのは、それは筋です。主はそっち。それは間違いない。

一方で、それだけだとほかの自治体と何も変わらんことになるわけですね。ですので、多様性の確保からしても、やっぱりこういったことに果敢に挑戦をしなければいけない。本来なら、これは民間の仕事なんです。どこでもそうです。しかし、民間にそのパワーが今ありません。ない。しかも、これは行政が利益を独占するわけでもありません。ですので、レモングラスも同じなんですけれども、少しずつとはいえ、やっぱりこう広がりよるわけですね。そいけんが、私とすれば、昌宏議員と全く性格は違いますけど、思いは一緒なんです。思いは一緒。どういうことかということ、農産物をきちんと出していくというのは主なんですけど、そうはいつでも、まだ武雄にブランド力がありません。なので、こっちなでね、これはレ

モンガラスのときにも何度も言いましたけれども、こっちで目を引きつけといて、それで売っていくと、京野菜のように売っていくというふうにしたいと思っています。

そして、ここから先なんですけれども、実は「温泉美人」、昌宏議員からがんがん言われるわけですよ。こいば持っていけとか、売れとかって、もうなかとですね。こいば持っていけて言ひんさるとですよ。もう夢にまで出んさるけんが。しかし、もうないんですね。それだけ行政の後押しの前に消費者は賢いです。おいしかですもんね、「温泉美人」は。ネーミングもいい。だれが考えたか知らんけど。あるいは、北方の「いなかレモン」もそうです。それとか、ゴーヤもそうです。そいで、西川登のレモンもそうですもんね。もう我々が言う前に売れとるわけですね。で、こいば行政の仕事としてはすそ野を広げると、特産品を一般産品化するというのが仕事ですもんね。点だけで終わらんで、そいば面にするて。そのときにもう1個、こっちにも不測の事態に備えてこっちも用意しとくということで、そこは昌宏議員と見解は違わんというふうに思っています。

それと、亜熱帯ということをおっしゃいますけれども、実はライチもリュウガンも篤姫の大好物やったとですよ。あいは指宿でつくいよったわけですね。そいば大奥に持っていきよったわけですよ。大奥に。江戸城ですね、こう持っていきよったと。で、そいば考えたときに、あの当時と比ぶっぎんた、温暖化で0.8度から0.9度上がとるわけですよ。てなるぎ、この武雄が前の指宿と同じぐらいですもんね。そういうことからして、この環境に合う産品をつくるという意味でも今回の我々のチャレンジは意味があるというふうに思っています。

しかし、これは失敗の可能性もあります。それはもちろんあります。ですが、我々は行政ですので、失敗になる前に果敢に撤退もします。うまくいかんごとなったら、もうずるずるべったり、どっかの行政んごと絶対しませんので、そこはぜひ御理解をしていただきたいというふうに思っています。

いずれにしても、そういうことによってブランド化を図ると同時に、武雄市民の皆さんたちが丹精込めている農産品等、あるいは果実をしっかりと売っていくということは、我々もしっかりやっていきたいと思ひますし、これちょっと最後にしますけれども、今度、佐賀県の香港事務所ができます。これをてこにして、今度はやっぱり減反て言われとるわけですよ。その米を、ちょっと余った、でも物すごくおいしかわけですね。こいば今度中国本土に果敢に売っていこうということも思ひますので、具体的な方策については、また議会とよく相談をしたいと、このように思ひております。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

きょう朝、私、家を7時前に出まして、一般質問をするために、武士はやっぱり身を清めてからびしゃつとして一般質問しようかなということで、きょう温泉に行って体をきれいに

洗って、これに挑みましたがけれども、そのときに黒板ば見よったら、あるところで行事予定表を見て、チンゲンサイ部会の忘年会と書いてありました。このチンゲンサイだって武雄市の特産品としてここまでブランド化できたのかなど。

そして、先ほどからレモングラス、レモングラスという話をしておりましたけれども、きのう、あるところへ行ったら、レモングラスのパック入りが売ってあった。武雄市のこの辺でやけん、レモングラスやけん、武雄市の話やろうと。じーっとうこうして見たら、どこのやったとかで、「神崎市」って書いてありました。武雄市でたいて売りよるごたっばってん、武雄市の中でも武雄市の品物じゃなくて神崎市のレモングラスが売れよったということは、やっぱり行政ももう少し、せっかくのレモングラスであれば、一遍に倍ばかりに面積をなすよというような感じでここには書いてありますけれども、あくまでも予定って、ここ丸を書いて予定って書いてある。それは確かに予定でしょう。けれども、やっぱりそういうふうな状況になるように行政としても手助けをしていただきたい。

しかし、手助けをするにしても、ある程度のところで手を切っとかんと、もうすべて行政がするということでは、やっぱりほかの事業もありますので、その辺については考えながらやっていただきたいというふうに思っております。

それでは、次の2番目の未来課のほう、こども部。これはこども部の中に、ちょっともう横に宮本議員がおられますので、本当に質問のしにくかたばってん、栄八通信についてちょっとしたいと思えますけれども、「陳謝文朗読の拒否の理由について」と書いて、いろいろここに書いてありますけれども、この懲罰動議を出した本人は私なんです。しかし、私は、懲罰動議はこいで出しとるとやなかですもんね。懲罰動議を私がこいで出したないば、そいは3日間要件とかなんとかいうのは当たらんやろうて私は考えております。言って、こういうふうに書いてある。ところが私が出したのは、こども部のほうから6月議会で出た分について、それは許されるべきものじゃないだろうということで私は懲罰動議を出した。それは、この件については全くこれは、見た者はそいぎそがんたいとしか思わんけれども、実際問題、そういうふうじゃなか、懲罰動議というのは、出した本人が言いよっちゃけん間違いなか。そして、そういう中で、こども部の部長から資料としていただきました。

きのうの一般質問の中でもありましたとおり、このもともとの発端は武雄の保育所の問題から出たような気がしております。そういう中で、宮本栄八議員の45号の栄八通信の中からそのときに言われたことについて、私たちはこうしていっぱいこのこども部設置後の施策をしておりますと、未来課で。こいを見よっぎ、本当に、数からいうぎんた少々あるです。二、三十ぐらいあるでしょう。そのぐらいある。そしてまた、わざわざ東川登小学校改築と同様に有効活用して学校敷地の拡大ができるて、これは栄八通信に書いてある。よそんなことば要らん世話です。東川登のことは東川登の住民の皆様方が20年来かけて民間移譲に頑張った成果が、今の川登保育所なんです。紆余曲折いろんなことがあって、20年かかったとですよ。

民間になそうで。そいば、たかだかよそから来て、東川登のとは民間にしたけんが広うなつたろうもんで、要らん世話。こいがまさに要らん世話なんです。

そういう中で、私は、こども部の名誉のために行政の長として市長は何らかの手を打たんばいかんと思うですけども、これについていかがですか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、自分のことでどれだけ批判されても非難されても、それは私の立場もありますので、それはいいです。宮本さんから散々あることないこと、批判もされたし、うそ、でたらめなことも書かれて、それは私自身が何とかすればいいかなということで、特に病院問題のときは10億円も借金を抱えて市民負担になるとかって言うて、それがわあーって広まっていったですもんね。ただ、それは後で自分がきちんと実績として示せばね、多分、宮本栄八先生様であろうとも、それは理解をしていただけると。この人も人間ですので、宇宙人じゃありませんよ、人間ですよ。ですので、それは理解を賜るといふうに思うとったわけですね。

ところがどっこい、こども部は怠慢部と決めつけて、そこにも、うそ、でたらめ書いとるわけですよ、もう本当に。こども部長はああいう優しい人です。しかも女性です。しかも、子どもの担当ばしとんさるです。で、だれよりもこのこども部長は、これは初めて言いますが、いろいろな事象があったときにみずから私のところに電話しんさつですよ、夜。あるいは、私もこういうことで困ったねってしたときに、やっぱり大人の案件よりも子どもの案件というとは焦眉の急ですもんね。こう電話したときも、やっぱり相談に乗って土日なくしよんさるわけですよ。こども部長だけじゃなくて、こども部全体がそうです。ああいう行動をですね、それはいろんな課題もありますよ。議論もします。

しかし、ああいったときに、宮本さんのあの怠慢部ということにしてみればね、これはもう相当な怒りを禁じ得ません。私、めったなことでは怒りませんよ。温厚で流していますので。これは本当に怒り心頭に達して、こども部長から言うなと言われましたけど、あえて言いますよ。震えながら、泣きながら私のところに來んさつたですよ。もうこれじゃ仕事できません。今度、宮本栄八議員にはその心境を私から聞きたいと思えますよ。この人も一般質問ばしんさるごたっけんがですね。する資格ないと思えますよ。ですが、それを私が強権的に言う権限もありませんので、それは議員に求められた権利でもありますので、それは真摯にお答えをしたいと思えますけれども、私からそれはぜひ、宮本栄八議員にはまた、市を代表する立場でもありますし、職員を守る立場でもありますので、それは私は厳しく追及をしたいというふうにおもっています。

その中で1点、もう相手せんがよか。もう時間の無駄ですよ、本当に。山口議員ともあろう人が、そいば手に持って右にしたり左にしたり、もうせんがまし。そいば喜びよる人は一

体だけですか。そいでしょって、こがん時間ばとって、一番の宣伝になるとですよ。そいけん、私は、もう宮本栄八通信は読みません。というか、もう読んでいません。それと、職員にも読むなと言っています。そのかわり、何かいろいろあったときにはですね、一般質問でいろいろ承ったことに関しては、これは公の場の質問ですので、これは市民を一部代表されている立場でもあるけんね、それはちゃんと真摯に答えるけれど、もう読むのはやめましょうね。皆さん目を伏せていますが、我々としてはそういうことで対処措置をしていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

いずれにしても、やっぱりお互いに言い分があるでしょう。まあ、宮本議員は宮本議員として言い分は確かにあるかも知りません。しかし、議会という中でルールがある以上は、やっぱりルールを守って、そして真摯に受けとめて、そしてまた、再度改めて受けるべきところはちゃんと受けて、また胸を張って議員として、議会人として頑張っていたいただきたいというのが私の本音で今回これを取り上げさせていただきました。

それでは3番目の最後の、私にしてはちょっと長過ぎたんですけども、3番目の市道、農道、里道、公有水面の維持管理は、今後どのような方向性をもって行われるのかということを出しておりました。

なぜ私が出したかということ、石橋部長のところはまちづくり部ですかね。まちづくり部の中に、今下水道課、農業集落排水事業の分と小型合併浄化槽の分と公共下水道の分の3つを統合して、下水道課として今なされております。しからば、今から先、例えば、市道、農道、里道、公有水面をのけたとの新しい市道とか農道をつくる予定があるのかどうかをまずお尋ねしてから、質問に入りたいと思いますけど。

○議長（牟田勝浩君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

新しい道路、市道、農道をつくるかということでございますけど、現在も新しい道をつくっておることもありますので、今後は状況によってもそういうことは十分あるだろうというふうに思います。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

要らん世話やろうもん。新しい里道をつくることがありますかて聞いたことはなかですば

い。（「いや、こっちこっちこっち」「うてあわんでて」と呼ぶ者あり）ああ、うてあうぎ
いかんやったね。市道、農道の話ばしただけ。里道ばつくとか、つくらんとかいう問題は
あり得んでしょう。要らん世話です。

きのうの話は、私語を慎みなさいやったですかね。私語を慎んでください。

私がなぜこいば言いよるかというぎ、例えば、今の武雄市の道路状況ば聞きよったら、私
には、この書類というか、もらっておりません。石橋部長は欲のきつかけんが、なかなか教
えんされんです。市道が大体600キロある。武雄市の市道。農道に関してが大体400キロ。と
いうことは、市道と農道だけで1,000キロちょい、1,025キロ。そいぎ、まずまちづくり部の
部長のところに行って、里道と公有水面というのは幾らあるとやて聞いたわけです。そが
んとわかるもんですかて、一発ではねられた。そして、北方支所に行ったです。北方支所
でも、そがんとわかるもんですかて。山内もしかりです。それは何かていうぎ、国から里道
をもろうた。国から管理をもろうただけです。そいけん、中身のわからんわけです。どが
ん中身のわからんかて、里道の上に家の建つとるですな、ほとんどやないですけども、もう
そがんとところのいっぱいあるとです。里道にかかった個人の家のいっぱい建つとる。昔で
言う三尺道、家の横に小さか道のあったですな。俗に言う三尺道、あれも里道なんです。

それから、公有水面とは何か。昔は市河川、市の川、町の場合は町河川て言いよったです
か。そいぎ、昔は町河川であり市河川でありあったわけですよ。ところが、今は町河川とか
市河川とかいうとは全くなかわけです。何があるかというぎ、1級河川と県河川と準用河川
ですか、この3つしかなかわけでしょう。あと圃場整備をした分については、すべて公有水
面になる。そこで考えんばいかんことは、里道であり公有水面というのはだれが管理するか。
その管理の方法なんです。市道は1億5,000万円ぐらいの予算のついて、事務費ば引くぎ、
1億円ぐらいの維持管理費になる。1億円の維持管理費という、おそろしくふとかごたる
ですけども、実際問題として、中身ば見るぎ、600キロに1億円しかなかどですよ。農道
に関しては、特別に農道維持管理費というのは何もなかでしょう。そいぎ、農道の管理はだ
れがしようか。地元民なんです。そして、俗に言う公役でするわけですな。そい、公役で
するのよかですよ。きょうは若い者のちょっと多かつたのうって、その公役に。若か者の多
かつたのうって、その若か者の年は幾らと思いますか。50歳以上なんです。（笑声）若か者
の多かつて50歳以上ですよ。いんにゃ、ほんなごて笑い事やなかです。これだけの農道400
キロ、里道に関しては幾らあいろわからん、公有水面に関しても幾らあいろわからんとい
うような状況の中で、すべてそれを各行政区に押しつけてという言い方は悪かかもわからん。
しかし、もう皆さん方で管理してくださいねというのが今の行政のあり方なんです。

そこで考えていただきたいというのは何かというと、農道にしても市道にしても、例えば、
災害があったとする。そいぎ、区長さんにしても、どなたにしても、この道路が果たして市
道なのか、農道なのか、どこかなかなかわからん部分があるわけですな。公有水面なのか、

里道なのか。そいぎ、まちづくり部が石橋部長ですね、例えば、まちづくり部に行ったら、二遍も三遍も来てもらうて、いんにゃ、これはやっぱり営業部の、森部長は営業部やろう、営業部のとやなかろうかて。もう二度も三度も四度も無駄足を運ばんばいかん。そいぎ、これ逆の立場もあるですよ。営業部に行ったら、いんにゃ、これはどうもまちづくり部んとやなかろうかと、そういうふうな無駄の物すごく多かような気がするわけです。

例えば、里道、公有水面、これはどこが、例えば、滑ったり何たいしたときに、まちづくり部であり営業部であり、何もしてくんせんです。それはなぜか。ここは公有水面じゃもんね。公有水面のどがんじゃいなくなったときは、だいがこいばしてくるっとかいて。災害しかなかですもんねていうのが現状なんです。（「そうそうそう」と呼ぶ者あり）そういうふうな中で、これを何とかせんばいかんという気持ちがあるかないか、お尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

何とかせんばいかんと思います。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

要するに下水道課を、3つをですね、要するに公共下水というのは、昔も今も国交省の管轄やったですね。農集というのは農林水産省の管轄でしょう。そいぎ、小型合併浄化槽なら今の厚生労働省、この3つの管轄なんですね。それを一緒になしたのが下水道課でしょう。しからば、ここの市道であり農道であり、それから里道であり公有水面であり、これを1カ所にまとめて、先ほど部長が言われた、ひょっとするぎ、新しい市道をつくるかもわからんと。しかし、市長は今ある道を活用してというのが市長の基本的なスタンスだと私は思うわけです。そういう中で、これを1カ所にまとめて管理をしないと無駄が物すごく多いような気がするんですけども、その辺について御答弁をいただきたい。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう身につまされながら聞きました。私は、言いわけはしません。ですが、ちょっと説明だけさせてもらおうと、議員も御案内のとおり、いろんな法律によってそれぞれ各課があるということはぜひ御理解をしていただきたいと思うんですね。やっぱり我々は法律にのっとって仕事をしています。これは縦割りのいいところであり、弊害でもあるんですね。よその畑のことは知らんとか、公有水面のことは知らんというふうになりかねません。それで、その解決策は、1つは一元する窓口をつくる、課をつくるという話については、私は、これは実

は反対なんですね。どうせ同じことが起きます。これはうちの係じゃなかもんねとかなるので。しかし、武雄はこれを解決できる財産があります。松尾技監です。

松尾技監は、御案内のとおり下水道課長も務められて、恐らく佐賀県下の中ではもっともそういった制度のことであるとか、あるいは関連のことは一番よく御存じであります。だから、技監にしたんですけれども、ここで技監を使いましょう。こういった相談であるとか、いろんな提案の窓口を技監に一本化させます。その上で、技監だけで判断して答えられるものはそれで判断してもいいんですけれども、そのとき技監室にすぐ聞けばわかります、どこにボタンを押せばいいかというのは。で、技監室に呼んで、そこで相談を承るということに、その技監のワンストップにしたいと思います。これでどうしてもまだ不都合とかあれば、また次のことを考えたいと思いますけれども、今あるものを活用すると。やっぱり技監です。ですので、技監を差し出したと思います。

○議長（牟田勝浩君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

まあ、技監であれ、どなたであれ、それは結構ですけれども、予算枠というのは限られているわけですね。例えば、先ほども言いましたとおり、1億5,000万円の予算がありますよ。予算はありますけれども、事務費を引いたら1億円ですよ。600キロに1億円。メーター当たりの単価ば出すぎ、もう知れたもんですよ。

そういうふうなことを考えたときに、やっぱり最終的に何を考えんばいかんかというぎ、無理、無駄をなくす。一遍行って済むところは一遍行くような状況をつくる。そういうふうな取り組みをして、そして、先ほどから申しましたとおり、例えば、武雄のまちの中でU字溝のふたのぼろっとしとった。そいぎ、電話のかかるですね、あそこにU字溝のちょろっと上がとったばいと。そいぎ、職員が行ってしよるですね。周辺部の皆さん方は、例えば、農道と市道の1,000キロの中の600キロか700キロか800キロか、そんなくらは恐らく周辺部の皆さん方でしょう。だいま来てくんされんですよ。U字溝のふたのぼろってしとるけんがいたてしてくんさいて、それは区でしてくんさいさて、そいしかならんとです。そいけん、それをいかんとは言っていないんです。言っていないけれども、行政の皆さん方としては、周辺部の皆さん方、住民の皆さん方にはこういうふうに迷惑をかけながら、自分たちも行政としてやっているんだなということを自覚していただきたい。そして、無理、無駄をなくして、少しでも武雄市民の福祉の維持向上に努めていただくことをお願いして、一般質問を終わります。

○議長（牟田勝浩君）

以上で19番山口昌宏議員の質問を終了させていただきます。

ここで、議事の都合上、10分程度休憩いたします。

休 憩 10時15分